

大阪を拠点に活動している glitter は性的マイノリティーのブライダル事業を展開しているほか、講演会を行い LGBT の認知を広めるべく啓発活動に取り組んでいる団体だ。代表の桜井秀人さんはブライダルプランナーの資格を有し自身もバイセクシャル、つまり性的マイノリティーの当事者である。当事者であるからこそできることはないかと自問自答し、活動を始めるに至った。

「普通のカップルのようにすればいいでしょ」

これは桜井さんがブライダル事業を進める過程で、式場を予約する際に言われた一言。やはり世間では結婚式は男女のカップルであげるものという固定観念があるため、式場の予約が円滑に進まないときもある。glitter が携わる結婚式の数は数えるほどしかないのが現状だ。性的マイノリティーの結婚式はメディアなどで取り上げられるほど貴重なものだという。

「92.4%のマジョリティーがどれだけ、7.6%の性的マイノリティーに寄り添ってくれる環境を作れるか」

桜井さんは性的マイノリティーの権利が拡大していくにはマジョリティーを巻き込みながら活動していくことが重要だと語る。

桜井さんは現行の法整備に関しては一定の評価を与えている。しかし完璧というには程遠く、配偶者控除を受けることができなかったり、共同の親権が持てなかったりと依然としてハードルが高い。また法整備に関して多様な意見があってしかるべきだと考える。

「同性婚が特別であるという空気にはなあって欲しくはない」

多様な選択肢を個人の自由で選べる、そんな社会を実現するために glitter は活動を続ける。